

# 岡山縣保育界の今昔

從 野 靜 江

## ◇幼稚園保育園について◇

明治十七年五月池田藩々學費の跡、岡山市西中山下に岡山県師範学校附属幼稚園が設置されたのが岡山県に幼稚園の出来た最初である。ついで、十九年一月後月郡井原に、二十年四月には、岡山市に岡山私立幼稚園として後に市立となつた深砥、弘西、清輝、旭東の四園が設立された。二十一年二月には吉備郡足守に、二十九年八月には笠岡西幼稚園、同年九月には倉敷幼稚園と次第に県下各地に幼稚園が設立され、岡山市の如きは小学校のあるところ必ず公立の幼稚園があつた。学区には必ず公立の幼稚園のあることが一般市民の常識となるまでに普及された。

しかしこうした隆盛のかけには、国富友次

郎先生をはじめ多くの功勞者のあることを忘れてはならない。

明治三十年の頃、一部の市會議員間に幼稚園の不必要を説くものがあり、それは次第に幼稚園廢止論にまで高まつていつた。當時、深砥小学校長であつた国富先生はこれを非常に遺憾とされ、議員の家庭を訪問しては幼児教育の必要を説き、折衝を重ねられて、遂に幼稚園は存続することとなり、尙當時問題となつていた深砥幼稚園の園舎改築移転までも市会を通過させられたということである。

先生はまた、保母の再教育を必要とされ、吉備保育会をつくつて保母の質の向上と幼稚園の振興とをはかられたり、和歌山より折井弥留枝先生を迎えて、岡山市幼稚園園長として保育の実をあげる等、大いに幼児教育のた

め力を尽された。

折井先生は後に深砥幼稚園一園の園長となられたが専心岡山市の幼児教育のために尽瘁せられた。昭和七年幼稚園を退かれ引つゞき岡山市立託児所の所長として勤勞者の幼児教育に専念され、空襲の年まで前後三十五年間先生の半生を岡山の保育につくされた。先生は本市の幼児教育の大恩人である。

折井先生の赴任に先立ち、明治四十一年四月、東京お茶の水の保母科を優秀な成績で卒業され、最も新しい教育を身につけられた岡秀（政）先生が、岡山県師範学校附属幼稚園の主任保母として赴任された。岡先生の赴任によつて今までの附属の保育は一新された。即ち二人掛の机はグループ式に、先生用の黑板や教卓は取り去られ、教師中心の教育は幼児中心に、朝会や鐘が廢止されて、時間的に区切られて形式のみとらわれた恩物教育は真に幼児の自發活動を尊ぶ恩物教育にと改められる等、自由主義の教育が着々と実施せられていつた。倉橋先生が説かれる保育の理想は岡山の附属幼稚園において実現された。

こうした先賢諸先生方のお骨折りにより、明治の後年より、大正、昭和と岡山県の幼児

教育は岡山をして教育県たらしめた一つの理由に幼稚園の普及発達があつたといわれるまでに隆盛をきわめた。保母養成機関も設けられ、保母の質も大いに充実し、岡山市の如きは公立幼稚園は全部女子の園長によつて運営せられていたことも特筆すべき事であろう。

ところが次第に激しさを増してきた戦争は幼児の楽しい日常生活の中にもつきまゝと戦時色が加えられていつた。心身を安全に保護されるべき幼児に鍛錬を望み、栄養の必要な幼児に日の丸弁当が奨励された。これは老若男女を問わず国民一丸となつての戦時体制のしからしむるところで致し方もなかつたことではあるけれども、日には何回となく空襲警報におびやかされ、その度に家路に急がせねばならなかつた。あの頃の幼児は今が中学生に成長しているが気の毒な時代に幼稚園生活を過したものだといつても可愛そうに思う。

一方幼稚園も戦時保育所への切りかえ、又はその併設等がやかましくなつてきた。地方には次々と切かえ又は併設が行われたが岡山市においては時の市視学原田美代治先生が最後まで保育所とせずがんばりつゝ、けられぬ。園長及び保母諸姉も幼稚園だつて必要と

あれば保育所の仕事の出来ぬことはない。今更名称を変更する必要なしと言ひ通した。

しかし空襲はいよいよはげしくなり岡山もいつ空襲されるかわからない状態となり、幼児達の最安全を考へて岡山市全幼稚園は昭和二十年六月十一日をもつて休園となつた。附屬幼稚園のみは時の女子部長坂元彦太郎先生の指揮により師範学校女子部学生の水ももらさぬ避難体制のもとに、最後まで安全に保育をつゞけられたことは、先生方の愛と熱、保護者の幼稚園に対する信頼、とに頭のさがるものがある。

六月三十日未明あのおそろしい空襲は岡山市の周辺にわずかに二、三の幼稚園舎をのこすのみですべて焼土と化し去つた。明治四十年の頃の建築で当時梅鉢式建築として有名であつた清輝幼稚園も焼失した。最新理想の建築様式として岡山市幼稚園の一つの型をなした。あつた幾つかの園舎も灰になつてしまつた。幼児達は住むに家なくちりちりに田舎や縁故をたよつて疎開して連絡の方法もない仕末。空襲から終戦とあまりにも大きすぎる世のうつりかわりに人ごころもなく、なすすべもなく遂に岡山市全幼稚園は閉鎖すること、

なつてしまつた。

岡山市はこうした有様であつたが隣接の倉敷市及び其の他の地方は直接戦火にもあわなかつたので保育所への切かえ等のため、幼稚園の数は戦前の約半数となつたが倉敷市が岡山市にかわつて保育界の中心となりより一層幼児教育振興に努められ今日に及んでゐる。

岡山市においては戦災都市の財政困難のところへ義務教育となつた新制中学の充実等のために力をそそがれ、義務教育ならぬ幼稚園の復活はおいてけぼりの形になつてしまつた。教育学部長として再び岡山へ赴任された坂元彦太郎先生は、未だにキリスト教の二葉幼稚園のほかには岡本市に一つの幼稚園も出来ていないことを遺憾に思われ、幼稚園のなしいことは岡山市民の恥だと各方面にその必要を説き、切きかけられると共に、創立間もない大学としては色々の困難があつたが、万難を踏して、岡山市に率先して附屬幼稚園を復旧せられた。

現在岡山市には今年市に編入された五つの公立幼稚園と理解ある学区民によつてつくられた私立幼稚園三、四があり、今後次第に市当局及市民の努力により復旧することである。

うと思うが今日では未だ昔日の勢いはない。

保育園は戦後児童福祉法により非常な勢いで発達し、数において幼稚園よりはるかに多い。岡山市についてみると、戦災後生活におわれた社会からも親からも相手にされず、幼児達の遊びには目を覆うものがあつた。二十二年一月共生会を運営させる社会事業家の角南氏により移動保育園がはじめられた。現岡山県保育会長大森次郎先生も共に努力され、幼児の数が次第に増すようになるに及び、職をひきちり／＼になつていったものと保母達をさがし求めて、学区単位に神社仏閣の境内等で保育をつづけられた。学区民もこの先生方の苦勞を感謝し次第に園舎も建築され、昭和二十三年八月一日児童福祉法による保育園として認可され、現在では殆んどの学区に保育園をもつようになつた。戦前からあつた託児所又は保育所もあらためて児童福祉によつて八月一日付認可された。

岡山市の幼児教育が保育園で再出発したのには経済上の問題が大きな理由となつてゐると思うが、終戦後最早七年、市民の理解と努力により速やかに幼稚園が各学区に復旧されることをのぞむ。このことは保育園の眞の使

命達成の上からも必要なことである。

### ◇保育会について◇

吉備保育会は、国富次郎先生が幼稚園教育を改善振興するためには保育研究会を組織する必要のあることを力説され、明治三十三年一月発会式をあげられたことにはじまる。

爾来岡山県下はもとより、香川、愛媛、広島、兵庫等にまで会員をもち、名会長国富次郎先生のもと、常によき副会長の内助があつて、名実ともに全国にほこる保育会となつた。

大正十年十一月には、京都、大阪、神戸の三市よりなる三市保育会に加入し、大正十三年秋には全国幼稚園関係者大会を岡山市において開催し、ついで昭和三年三月には全国幼児教育研究大会を主催して教育岡山を全国に照会することが出来た。又昭和六年五月には、中国、四国、九州幼児教育研究大会を主催して保育聯盟を組織し、国富吉備保育会長は聯盟総務として幼稚園の普及発達のため尽力された。

昭和十五年、岡山市市民の要望により先生は岡山市長に就任されるに及び、一切の職を

辞されて専心市のために尽されることになつて吉備保育会長をもひかれることとなつた。

時に、戦はいよいよ深刻となり、各種教育会は大日本教育会に合流されることとなり、吉備保育会も止むなく発展的解消をすることになつた。

思えば吉備保育会は四十有余年間、国富会長のもと、幼稚園の普及発達、保母の向上等に貢献したことは偉大なる業績といふべきである。

終戦後、吉備保育会の再発足は時勢の要求するところとなり、倉敷市保育会長松井恵戒先生等の尽力により、昭和二十三年二月倉敷市において、吉備保育会の結成式が行われ、松井恵戒先生を会長として再び力強く誕生したのである。

ついで二十四年十二月、県下の幼稚園、保育園を一九とした研究組織の必要上、吉備保育会は再び発展的解消をして、岡山県保育会の名で結成をみた。以後今日に至るまで岡山県保育会は幼稚園部と保育園部が各々協力しながら各自の使命に向つて研究をつづけている。

国富先生は九十余歳の齢を重ねられたが、

今尙壯者をしのご御健康と昔にかわらぬあの方強いお言葉でいつまでも幼児教育發展のため御鞭達を承わることの出来るのは、岡山県保育界のよきこびとするとところである。

### ◇幼稚園、保育園の

#### 教員養成について◇

明治十七、八年頃、岡山県師範学校で四、五ヶ月間保育の養成をしたのがはじめてのようである。その後数回こうした養成が行われたが年代は明らかでない。後月郡井原の校長、岡山市の山田、古田、高木等の諸先生方はその頃の養成をうけた人々であり、明治から大正にかけて幼児教育の中堅となられたように聞いているが、戦災にあい記録がないのはつきりしたことはわからない。

大正の時代になり保育養成科設置の声は次第に高まり、遂に県当局もその必要を認めることとなり、大正十一年四月岡山県女子師範学校に県主催の保育養成講習会が設けられ、昭和十七年度まで引きつゞき保育の養成がなされた。昭和十八年度より養成講習会が廃止されたので終戦後の幼稚園は各地とも無資格者が多くなり、なかには全職員無資格といつ

た幼稚園も出来て憂慮される状態となつてきた。

この時にあたり、倉敷市御園幼稚園主松井恵戒先生はこれを遺憾とされ、私費を投じて二十三年四月より幼稚園教諭を養成された。

附属幼稚園を退かれても常に幼児教育に関心の深かつた岡秀先生が松井先生の乞いをお願いられて再び教員養成に力を注がれるようになり、今日引きつゞき色々の方面で研究に指導に尽されている。先生は岡山県保育界の至宝というべきである。養成機関は二十六年度に至り、国公立幼稚園長会等の骨折りにより県が主催するようになつて御園幼稚園での養成はなくなつたが、三ヶ年間経営を続けられ幼稚園教員の資格を向上させられたことはいうまでもなく、これが県が養成にのり出す橋わたしとなつたことは大きな功績といわねばならない。

二十六年四月一年課程の岡山県立幼稚園教員養成所が岡山大学教育学部内に設けられ、今春第一回の修了生を送り、本年も引きつゞき三十余名の学生が幼稚園教諭として養成されつゝある。

幼児教育に深い関心と理想を持たれ

る岡山大学教育部長坂元彦太郎先生が幼稚園教員養成所長として直接学生の指導にあられるのみならず、私共実務者のため常に新しき知識を与えられることは、これもまた岡山県保育界にとつてまことに有難いことである。

先生はまた教育学部にも幼稚園教諭の単位修得の出来るよう体制を整えられている。来春あたり大学出身の幼稚園教諭を幾人か幼稚園へ迎えることが出来るのではあるまいか。

それにつけても幼稚園の県費負担、国庫負担が一日も早く実現されたいものである。

保育園においては昭和二十四年十一月児童福祉法により二年課程の岡山県立保育専門学園が設立され尙二十四年以来毎年一回保育の検定試験が施行されるようになり、各保育園とも次第に充実した歩みがつゞけられるようになった。

### ◇研究機関について◇

永い年月その実現をねがっていた幼稚園専任の教育主事が岡山県にも漸く設置された。昭和二十五年四月からである。それまでは兼務で行政面の仕事はしていたが、保育の実際指導となると附属幼稚園の先生が指導員の資

格で各地の研究会に出席指導したにすぎなかつた。今後は専任教育主事の指導のもとに幼稚園教育は一段と充実し発展すること、思う。

現在県が主催して毎年県下を三、四の地区に分けて研究中心園をつくり、その園を中心に協力体制を整えて、一ヶ年間又は二ヶ年間に継続で研究をつづけられている。

各都市には又別に民主的な研究会をもち、幼稚園、保育園が一体となり研究の交換を行っている。

又日教組岡山県支部としては、小、中、高等学校と歩調を合せ、講師の指導のもとに研究がなされ、今年度は坂元彦太郎先生と岡秀先生が幼稚園部の講師を担当されている。

そのほか岡山県保育会、関西聯合保育会等々の研究機関並に各種の講習会等のあることは、他県ともかわりないところである。

### ◇おわりに◇

岡山県保育界の今昔についてかくようにとの倉橋先生のお言葉により、柄にもないことと知りながらお引受けはいたしましたもの、拙い筆に加えて、文献、記録の殆んどは空

襲で失つておりますのでこれは尙更むずかしい仕事でございました。先輩諸先生方の御協力をいたゞき、記憶をたどつたり、文献記録の蒐集に努めました。岡山市に住み、岡山の幼稚園に終始しました井戸の中の蛙の私で

(20頁から)

すうろと鼻が通るのである。これは赤外線の中でも波長の長いものが、皮膚の奥深いところの神経の末端を刺激するため、その反射で鼻の粘膜にある毛細血管が充血するためとわかつた。

なおビタミンDがコレステリンから転化することは、人間のような皮膚では理解できるが、羽のある鳥や毛のある獣ではどんなになつてゐるだろうか。紫外線は毛や羽に附着してゐる油性の分泌物の中に

あるエルゴステリンを転化し、それを動物がからだの表面をなめまわして口に入れ、さらに腸に行つて吸収されると説明されている。いろいろな鳥や獣が、約三十年前に紫外線とビタミンDとの関係

ありますので自然岡山市が中心となり、幼稚園のことが主になつてしまいましたことをおわび申し上げます。

(岡山大学教育学部附属幼稚園)

を明らかにした研究によつて意味づけられた次第である。

目の明るさを表わす単位は、ランバートというが、月は〇・二五、快晴の天空は〇・四、ガス入りタンクステン線電球は一六〇から三〇〇、正午の太陽は実に一〇〇〇〇から二〇〇〇〇〇である。われわれは結局みんな光の子なのである。(東京大学教授医博)